



野間灯台(知多郡美浜町)

広がる空と海、ひときわ映える高さ18mの灯台は、知多半島のシンボルとして親しまれています。

信ずるところに道は開ける

診療部
岩崎 寿史

今年度から精神科の医局長を務めております岩崎です。早いもので、非常勤で1年、常勤になりさらに1年が経ち、当院にもだいぶ慣れてきたところです。

わたしの敬愛するアルベルト・シュバイツァー博士は、「わたしの愛の行いが何の効果も及ぼさないとすれば、それはわたしの内なる愛がまだ少なすぎるためである。わたしが、わたしの周囲に跋扈している不誠実や虚偽ばつこに対して無力であるとすれば、それはわたし自身がまだ十分誠実でないところに原因があるのである。わたしが悲しむべき妬みや悪意が、尚ほはびこり続けるのを黙示せざるをえないとすれば、それはわたし自身がまだ狭量と嫉妬心から抜けきっていないということである」と語りました。自分の責任すら取らないどころか、何か失敗したりうまくいかなかったりすると他人に責任転嫁してしまう現代に、このような彼の確信は、わたしの心を固く捉えて離しません。

わたしは今思うに、大勢の人々に支えられ励まされてきました。病院の敷地内を歩いたり、病棟に顔を出したりす

ると、実に大勢の患者さまから、「先生、お早ございます!」や「先生、こんにちは!」と声をかけていただいたり、時には「先生、体に気をつけてね」と体の心配までしていただくことがあります。その一言に励まされて、また患者さまのために頑張ろうという気持ちにさせられます。最近患者さまの一人から診察室でこのように言われました。「先生は人を決して悪く言いませんね。みんながいい人になっちゃう。そういう風に自分も生きてみようって今は思うんです」と。とても嬉しかったです。信じるところに希望あふれる未来があり、それは薬以上に人生を変える力を持つからです。

完全な病院などひとつもありません。スタッフも患者さまも、当院の不十分さについつい目がいくこともあるでしょう。それでも、見限らず、期待してください。皆様の優しさと慈しみによって、さらに当院は育てられていくことでしょう。わたしも精一杯皆様に負けず励んで参りたいと思っています。どうぞ皆様、色々ご迷惑をかけるかとは思いますが、熱意は人一倍ありますので、よろしくお願いします。

第11回 共和病院
地域医療フォーラム

平成21年6月20日(土) 大府市勤労文化会館において、第11回共和病院地域医療フォーラムを開催しました。今回は「あたりまえの生活」を考える」をテーマに退院支援や地域生活支援などの取り組みを紹介しながら、参加していただいた皆さんと共に考えることができました。

第1部講演「あたりまえの生活を考える～繋がる皆がハッピーになる～」と題して、社会福祉法人みどりの樹 地域移行支援コーディネーターの尾関久子さんに講演していただきました。尾関さんは、浜松市障害者相談支援事業所「ぼるた」で相談支援専門員として、また浜松市のみにとどまらず幅広く活躍をしていらっしゃる笑顔のすてきな方でした。

尾関さんが初めて退院促進事業で事務局を担当された時を振り返り、まず長期入院患者さんに戸惑ってしまったとの事です。それは、患者さんには退院する意欲が感じられず、また患者さんに「貴方にとって当たり前の生活は」と尋ねてもそのイメージが出来ず、将来のことを考えることも止めてしまっていた状態だったからです。患者さんの中には病気に逃げているようにも感じたとの事です。そこで、病院に対してどうして患者様を地域に戻さないのか不思議に思ったようですが、それは尾関さん自身が病院の世界を知らなかったからで、徐々に病院の事情などが理解できるようになると、病院が何でもしなければいけない時代があったことや、病院から外へ飛び出して少しずつ地域を創り上げていた諸先輩たちがいた事を知り、病院職員自身もこのままで良いのかと葛藤している事も分かってきました。それで尾関さんは「お互いを批判するだけでは何も生まれない」と考え、最初に、お互いが置かれている状況を知り合うことから始め、病院と地域がそれぞれ

出来る事と限界を理解しあう事が大切だと思われたようです。また、地域がこれから努力する事として、「地域での生活を病院に伝え、地域の資源を病院に知ってもらうこと」であり、一人一人が繋がり、誰もが幸せになれる社会を目指そうではないかと話されました。また、地域移行支援にあたり「何も語らない、退院する事をあきらめている長期入院患者さんの思いを聴く」ためには、「私は貴方のことが知りたい、貴方の歩んできた歴史が知りたい」という思いを伝えることから始まるのではないかと話されました。

尾関さんは精神障がい者の人権にも触れ、「本人に責任を持たせず全てを良かれと思って管理してしまう事は、人権が守られているとは言えない」との指摘もありました。

最後に、合言葉として「小さなケアマネ、大きなケアマネ」と伝え、個別支援、就労支援は小さなケアマネであり、それが大きなケアマネである地域づくり・ネットワーク作りへ広がり、その両方の大切さが必要であると話をまとめていらっしゃいました。



病院の中で、管理と人権はいつも向かい合わせになっており、病院の枠の中だけでは歪んでしまう事がありがちです。地域の方たちにも病院に入っただけ、いつもいろいろな視点で話し合われるといいな、と尾関さんの話を聞いて思いました。

講演の中で上映した退院促進事業紹介DVDでは、退院促進事業にかかわっている精神科病院の院長が患者さんを演じたり、福祉関係者が〇レンジャーになっていたり楽しそうに演じていたのが印象的でした。

(看護部 山口かおり)

～実践報告を通して～

第2部は、座長を当院 名誉院長の榎本が担当し、実践報告を行ないました。

①看護師の秋山と作業療法士の安藤は「慢性期閉鎖病棟における退院支援の取り組み－看護師と作業療法士から－利用者ニーズへの接近」と題して、患者様への支

援・活動を通じた患者様の様子の変化から感じたことを発表。

②看護師の鈴木は「地域生活を継続するために～訪問看護ってすごーい!～」と題して、利用者様のアンケート調査から得た現状や訪問看護の実感を発表。

③作業療法士の藤松と精神保健福祉士の平野は「地域でよりよく生活するために～デイケアでの取り組み～」と題して、デイケアの支援とこれからのプログラム、利用者様の生の声を動画を利用して発表。

④大府市障がい者相談支援センターの間瀬さんを迎え、「地域生活支援って何?～みんなでつくろう支援の輪～」と題して、相談内容、関係機関との協議やネットワーク作りを発表しました。

各発表者それぞれの役割に責任を持ち、医療機関での関わりや、地域でよりよく生活していただくために頑張っている姿がよく伝わってきました。

発表後の指定討論、質疑応答では、会場からいくつかの質問がありました。現在地域でおこっている問題や、ネットワークを広げるために、真剣に取り組もうという参加者の姿勢が感じられました。

第1部の講師にお招きした尾関さんからも、病院に入院したときから退院支援は始まって



いること、スタッフの熱意により地域に移行できるケースが増えること等、よいアドバイスを頂きました。

今回の実践報告では、入院中の方は退院に向けての支援を受け、地域で生活を送られている方は生活の継続ができる支援(利用者様のニーズにあった在宅支援)を受けられること、医療機関や福祉に従事する方は、地域支援のネットワークを広げ、病気を抱えている方の生活を皆でサポートすることの大切さが学べ、とても良いものでした。

このフォーラムを通し、今後 支援の輪がたくさんの方に広がるといいなと思いました。

参加していただいた関係者の方々、会場の皆様、ありがとうございました。

(看護部 三鬼ルミ子)

医療福祉課



みなさんこんにちは。

医療福祉課(通称「ソーシャルワーカー室」)です。

医療福祉課には、現在、5名のソーシャルワーカーが配属されており、患者様ご自身やご家族などから相談をお受けして、医療・福祉制度の紹介や、サービス利用のお手伝いをしています。また、受診や入院に際してのご相談や、退院後の生活についてのご相談などもお受けしています。



医療福祉課が担当する業務の多くは、院内・院外の、いろいろな部署、機関、専門職の方々と協力しながら行ないます。院内では、医師や看護師、リハビリテーションに関わるスタッフなどのほか、医事課や施設課に協力を求めることもあります。また院外では、大府市内はもちろんのこと、東海市や東浦町、知多市、半田市、名古屋市緑区、豊明市…といった近隣市町にも出かけ、役所や関係機関の皆さんと話し合ったり、訪問看護を行ったりしています。こうしてできあがるネットワークや、行動範囲の広さ、そしてフットワークの軽さでは、院内1、2を争う部署ではないか!?と、実はひそかに自負しています。そんな医療福祉課ですが、ご覧の通り若いスタッフが多いので、日々研鑽を重ねながら、当院を受診される患者様やそのご家族の皆様が安心して医療が受けられるよう、また、療養生活上の不安を少しでも軽くしていただけるよう、相談援助や情報提供に努めていきたいと思っています。

医療福祉課 河村 勝浩

安心と満足を提供する医療に向けて

当院は、職員の更なる向上に向けた資格取得を支援しています。患者様に、より安心と満足を提供するため、職員は日々自己研鑽を繰り返し、最新の専門的な知識は、患者様へのよりよいサービスへと繋がっています。

ここに、平成21年春 資格取得を果たした職員を紹介します。

| | | |
|------------------------|-------|-------|
| 精神科 認定看護師 (注1) | 山下 隆之 | B-4病棟 |
| 看護師 | 深谷 咲子 | A-2病棟 |
| | 大前 直美 | C-2病棟 |
| 介護福祉士 | 山本 磨美 | A-2病棟 |
| | 柘植 真弓 | C-1病棟 |
| | 森本 靖 | C-1病棟 |
| CVPPP トレーナー (注2) | 稲垣 聖一 | C-2病棟 |
| | 今村 諭史 | C-3病棟 |

(注1) 精神科認定看護師

精神科認定看護師制度は精神科看護の社会的地位と精神科看護の質を高めていくため、日本精神科看護技術協会が1995年に創設した制度です。この資格はさらに、うつ病看護や薬物調整など10の精神科専門領域に分かれています。

精神科認定看護師の役割は、病院や地域での各専門領域において、質の高い看護実践の役割モデル、チームにおけるスーパーバイザー、スタッフのメンタルサポート、教育活動などを担います。

(注2) CVPPPトレーナー

CVPPP(Comprehensive Violence Prevention and Protection Programme)は、包括的暴力防止プログラムとして、医療現場などで取り入れられています。暴力が起こらないように予防的介入を行い、かつ暴力や攻撃的ではない手法で対処することができるよう援助する技法です。トレーナーは、この技法を職員に伝える役目を担います。

編集後記



暑い夏になりそうです。冷房のきいた部屋にばかりいないで、しっかりと汗をかき、おいしいビールを楽しみに日々の生活を送っていきたくと思っています。今年は特に冬のインフルエンザのことが気になりますが、今の

うちに体力・免疫力を高めるためにも、体を動かし、ストレスをため過ぎず、充実した仕事をしていきたいです。皆さん、くれぐれも、飲み過ぎ・食べ過ぎには気をつけましょう。(Y.K)

ケアワーカー第1号から見た 共和病院の歴史

平成21年6月3日、
当院の集合教育の一環として、共和病院の
ケアワーカー第1号の大部 恵さんの講演
を行ないました。

大部さんが病院へ入職された平成6年
は、国が高齢者保健福祉推進十ヶ年戦略
ゴールドプランを策定し、老人福祉施設の
拡大と充実を推進しようとしていた時期で
した。

病棟あたりの患者様は
95名ほどと現在の倍近く
みえ、それに対してスタッフ
は20数名でした。その中
に、各部屋の隅に小さな畳
を敷いて24時間体制で家
政婦さんもみえました。ケ
アワーカーが手伝いたく
ても手を出せない状況で、ケ
アワーカーと家政婦さん
との関係は難しかったそ
うです。ケアワーカーが入
職してもすぐに辞めてしま
う人が多い中で、大部さん
は15年間も続けてこられ
ました。



さんの姿が消えました。寝たきり0(ゼロ)
作戦の始まりで、ケアワーカーの力を発揮
する場となりました。仕事が終了すると、
自販機の前にケアワーカーが集まり一息
つきながら情報交換をしたり、看護師に
介護について講義を受けたりと、病院全体
が活気づいていたそうです。

この講演を聴いて、私自身、大部さん
のように自分達から何かに取り組み、ワク
ワクしながら仕事に熱中しているだろう
かと考えさせられました。

私達の笑顔は“患者様の笑顔”と言わ
れた時、胸が熱くなりました。

大部さんと一緒に仕事ができることに
感謝すると共に、共和病院の「優しい医
療・楽しい職場」のもと、今、私達が
出来る事は何かを考え、何事に対しても
一生懸命に、チャレンジ精神を忘れず
に、協力し合い、楽しくワクワクして
仕事が出来ればと思います。

看護部教育委員会 阪上 昌子



ケアワーカーとして、記録や体位変換の
方法など患者様の為に工夫されて、何
事にも真剣に取り組む姿勢は、今も15
年前も変わらないと感じました。

お知らせ

- 7月30日(木)
盆踊り大会を開催します。
どなたでも参加していただけます。
 - 8月13日(木)～16日(日)
お盆休みにつき外来診療を休診させて
いただきます。
 - 9月27日(日) 9:30～15:00
大府市福祉・健康フェアに出展します。
場所：石ヶ瀬会館・保健センターなど
 - 10月10日(土) 10:00～15:30
第4回 文化祭「てんてん祭り」を開催
します。
テーマは「笑み」です。みなさまのご参加
をお待ちしています。
- ※詳細は、追って院内掲示等でご案内いたします。



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が
感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ
納得のいく医療を受けていただくこと
を目指し、それぞれの尊厳を大切に
して、思いやりのある医療を提供しま
す。さらに、地域関係機関との密接な
関係を保ち、地域の医療水準の向上
に努めます。

- 1.あなたは、個人的な背景の違いや病
気の性質などにかかわらず、必要な
医療を受けることができます。
- 2.あなたは、医療の内容、その危険性
および回復の可能性についてあなたが
理解できる言葉で説明を受け、それ
を十分納得して同意したのちに、医
療を受けることができます。ただし、
必要に応じて主治医の判断によっ
てご家族、代理の方にお話をす
る場合もあります。
- 3.あなたは、今受けている治療、
処置、検査、看護・介護、食事
その他についてご自分の希望を
申し出ることができます。また、
他の医療機関に転院したい場合
は、必要な情報を提供致します。
- 4.あなたの医療上の個人情報は保
護されます。
- 5.あなたの社会でよりよい生活が
提供されるよう、地域関係機関
との連携を図ります。

院長 安藤 勝久



特定医療法人
共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>